

## 第 5 回日台アジア未来フォーラム「日本研究から見た日台交流 120 年」 アンケート集計結果

開催日:2015 年 5 月 8 日

場所:国立台湾大学文学院 演講庁 20 番教室/会議室

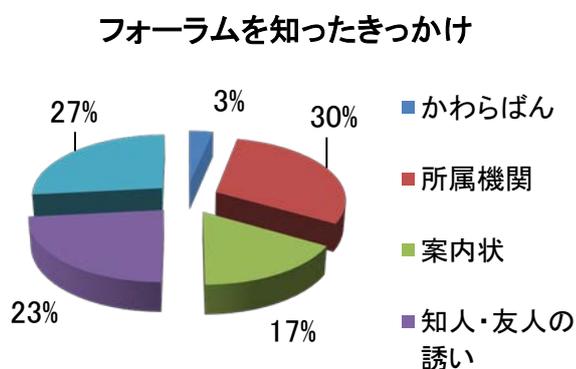
参加登録者数:170 名

有効回答数:	40
記入言語	
日本語	30
中国語	10

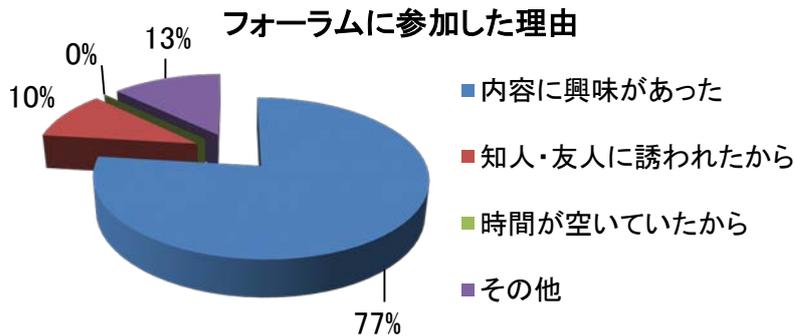
出身国	
台湾	14
その他	15

年齢層	
20 歳以下	0
21～30 歳	7
31～40 歳	6
41～60 歳	16
61 歳以上	1

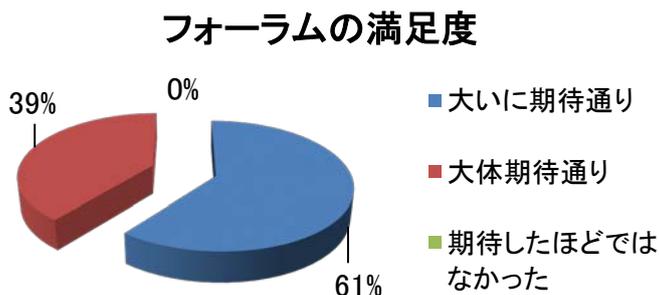
フォーラムを知ったきっかけ	
かわらばん	1
所属機関	9
案内状	5
知人・友人の誘い	7
その他	8



フォーラムに参加した理由	
内容に興味があった	30
知人・友人に誘われたから	4
時間が空いていたから	0
その他	5



フォーラムの満足度	
大いに期待通り	20
大体期待通り	13
期待したほどではなかった	0



**自由回答欄（国籍など未回答箇所は記載せず）**

**(3)「このフォーラムは期待どおりでしたか」(理由・コメント)**

準備が十分にされており、時間の管理が素晴らしかった（男性・41～60歳）

このフォーラムを通して、台湾の過去・今・未来について深く考えることができた(台湾・男性・41～60歳)

各方面の視点から日台関係の詳しい説明があった（日本・女性・21～30歳）

日台関係の深い洞察に富み、大いに勉強になった（日本・男性・41～60歳）

未来フォーラムなので、もっと未来についての討論を聴きたかった。例えばアジアの国際関係の変化、地域の安全と安定の変化、日台と日中関係の経営方法や展望など（台湾・男性・41～60歳）

歳)

新しい研究成果を知ることができた (日本・男性・41～60 歳)

一篇一篇がしっかりとした内容を持っている (男性・41～60 歳)

**(4)このフォーラムでどんなテーマ、あるいは何が一番印象に残りましたか？**

様々なジャンルに広がりすぎている感がある (日本・男性・41～60 歳)

「日久他郷變故郷」。こういう話題を取り上げつつ、やはり□□□の問題を□実な姿勢を深く共感した？(一部判読不可) (男性・41～60 歳)

松田康博教授の講演と吳叡人教授の発表。内容の色々なことが勉強になった。台湾人としても強い励みをもたらした。(台湾・女性・21～30 歳)

松田康博先生の論文、石之瑜先生の評論と鍊淑敏先生の発表。テーマとしては日台関係、文化論における台湾アイデンティティと“湾生”の議論に興味がある (女性・31～40 歳)

全部面白かった (台湾・女性・41～60 歳)

日本語学研究、日本語教育研究 (男性・21～30 歳)

黄翠娥先生からの指摘について。近代台湾文学の研究に台文所と日文所で重ねて研究されている事態に「立場による偏見」と「資産浪費」といった問題がある。(台湾・男性・41～60 歳)

反記憶政治論、総合討論 (台湾・女性・41～60 歳)

日本語の語学 (台湾・女性・41～60 歳)

吳叡人教授。台湾人は歴史を通して客観的な立場になるべきだと思う。歴史は事実であり、歴史を左右することはできない (台湾・女性・31～40 歳)

- ・日台の単純ではない歴史を各方面から整理された形で学ぶことができた
- ・特に松田先生、李先生、川島先生のマクロ視点の解説が参考になった
- ・総合討論も熱っぽく、大変印象に残った (日本・男性・41～60 歳)

言語・語学分野の報告（日本・女性・21～30 歳）

日台社会の変容と交流（台湾・女性・21～30 歳）

松田教授の講演（日本・男性・61 歳以上）

日台ビジネスアライアンスについて

反記憶政治論（日本・男性・41～60 歳）

- ・総合討論:21 世紀の日台関係を展望する
- ・日台企業間の信頼と協力の再生産
- ・コメント:「未来に繋がる」（台湾・男性・41～60 歳）

黄翠娥教授。台湾特有な文化は何か、それは台湾人にとってもっとも重要な課題だと思います。しかも文学はどれほど重要な存在か、教授たちの力で学生たちにちゃんと伝えるべきだと思う。（台湾・女性・31～40 歳）

セクション 1,3,4（台湾・女性・31～40 歳）

松田教授の講演、川島教授の報告（日本・男性・41～60 歳）

第 3 セッション（日本・男性・41～60 歳）

なぜ台湾が親日か（日本・男性・21～30 歳）

基調講演（日本・男性・41～60 歳）

中国の視点から見た台日関係 120 年

台湾・日本での台日関係の研究は少なくないですが大陸からの視点という内容はなかなか見られないので興味深かった（男性・31～40 歳）

申忠均先生の「韓国における日本語教育の歴史」（日本・男性・41～60 歳）

1970 から 1980 年代の日本学術界は台湾の殖民歴史を日本史の範疇に入れたこと、つまり「東洋史」に入れてなかったことについて呉密察、川島真教授二人とも指摘した。この見解は 1990 年以後から違っていた（日本学術界の分け方によれば 1990 年以後から台湾の歴史を日本史から区別

するようになった。)アメリカとソ連の冷戦が終わったあと、台湾、日本、中国は過去の歴史から立脚点を探そうとしていると石之瑜教授が説明している。教授たちの説明から「材料を検討する」ことが研究に如何に重要かということを知ることができた。

(原文(中国語)は句点で区切っているため、2通りの意味が読み取れます。区別するため、青字と赤字で区別しました。)(台湾・21～30歳)

李承機、賴錦雀、吳叡人など大家の発表で内省が促された。(台湾・男性・31～40歳)

<日本研究の振り返り及び展望—語学及び文学> (台湾・男性・41～60歳)

第1セッションと第3セッションの議題に最も興味を感じた。しかも、同じ領域の方々にたくさん会えた。(日本・男性・61歳以上)

総合討議 (台湾・女性・31～40歳)

半記憶政治論。固有の認識の枠から離れる。歴史を再観察する。自分の反省能力 (台湾・男性・61歳以上)

<根を下ろせし異郷、故郷となれり>という鍾淑敏先生の論文は日本統治時代に台湾にいる日本人への理解を深めた。(台湾・男性・31～40歳)

データから見た台湾における日本語学研究 (女性・21～30歳)

「台日交流 120年」は非常に意義のある会議。しかし、若い参加者があまり多くなかったことが一番残念なことである。(台湾・女性・41～60歳)

#### **(5)今後希望するテーマ、コメント**

日台に韓を加えることで、アジアの未来の一側面に光を当てたい。(男性・41～60歳)

東アジアの歴史と国際政治についてのテーマ (台湾・女性・21～30歳)

日本の対台・中政策、日本や中国の民族主義、東アジアの安全環境などに興味がある (女性・31～40歳)

語構成に関するテーマに興味がある (男性・21～30歳)

日本領台湾の時期で台湾日文作家の作品を通して、当時の台湾の事態が描かれる（台湾・男性・41～60歳）

語学、文化、文学（台湾・女性・41～60歳）

日中台経済発展と協働（台湾・女性・31～40歳）

- ・民間企業の奮斗(?)事例[成功事例・失敗事例]と理論
- ・芸術系(映画、広告、建築 etc)の先進事例と理論
- ・青年や子供分野での交流、参考事例と理論（日本・男性・41～60歳）

日台貿易も変容と展望について（台湾・女性・21～30歳）

- ・今後の日台関係において双方の目指すべき方向
- ・アジアの中の日台関係の方向性（日本・男性・41～60歳）

日台合作でアジアに何か貢献できること（台湾・男性・41～60歳）

日台文化比較（台湾・女性・31～40歳）

経済面のテーマ（台湾・女性・31～40歳）

現代史の新しい□□や□□（一部判読不可）（日本・男性・41～60歳）

- ①台日交流 120 年以後、今後の展望
  - ②グローバル化の中における今後の台日関係の新展(進展?)
  - ③中国の世界進出に対して、日・台・韓の 21 世紀の展望
  - ④ロシアの南下政策に対する 19 世紀、20 世紀そして 21 世紀の東アジアの展望(ヨーロッパとの比較)
- （日本・男性・41～60歳）

台湾と日本間の学生同士の交流。一般研究生には費用が掛かりすぎてできないので。（男性・31～40歳）

- ・台湾における日本語教育、日本における中国語教育
- ・台湾で使われている中国語や他の華人・華僑社会(香港・マカオ・シンガポール・マレーシアなど)の中国語をどのように位置づけして取り入れるかなど（日本・男性・41～60歳）

東アジア儒教関係（男性・41～60歳）

「台日の原住民政策と民間の見方に関する研究」。今回の発表は学术界に偏っているので、産業界や官僚にも参加してほしい。(台湾・男性・31～40 歳)

古今、国内外の(時間や領域を超えた)文学や文化交流、言語への影響 (台湾・男性・41～60 歳)

外交問題の議題にかなり興味を持っている (台湾・男性・61 歳以上)

文学・文化 (台湾・女性・31～40 歳)

スマートフォン教育 (台湾・女性・41～60 歳)

未来と向き合い、どのようにして台・日・アジア(中国)の共同ビジョンを作り上げ、そして将来的にはそのビジョンに向かっていくこと (台湾・女性・61 歳以上)

日本統治時代の台日文化交流に関する議題 (台湾・男性・31～40 歳)

日本語教育・語学・経済貿易 (女性 31～40 歳)

社会科学と人文科学の対話は重要だが、トピックを分ける必要がある。たとえば、文学と政治、語学と政治など (台湾・女性・41～60 歳)